

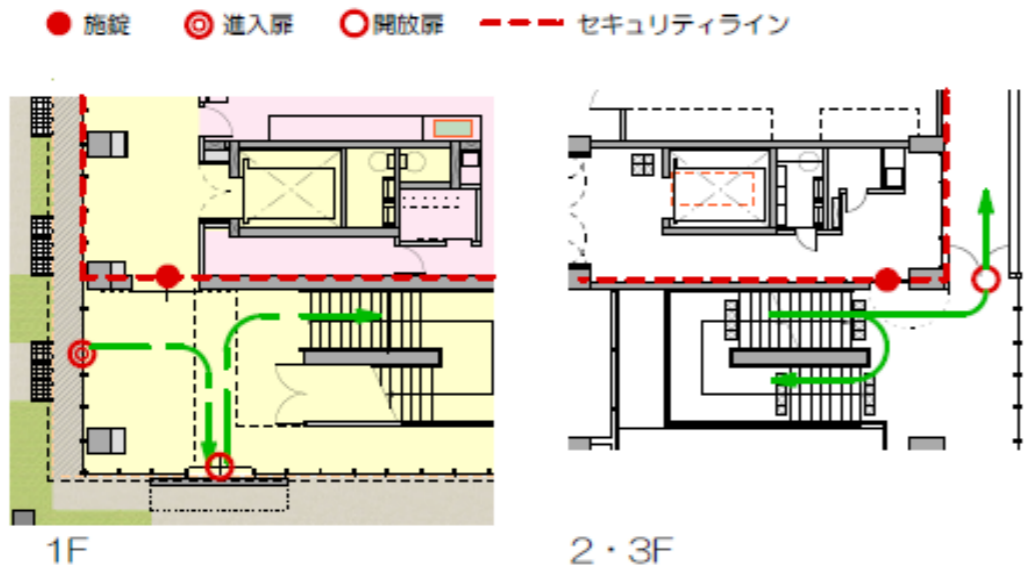
避難の考え方

＜外部避難者＞

- ・外部避難者は南側防災広場を介して内部階段より屋上へ避難する。
- ・夜間など建物管理者がいない場合には、1人目の避難者が西側の避難口を破壊して階段室に入り、南側の開口を解錠して他の避難者の誘導を図る。

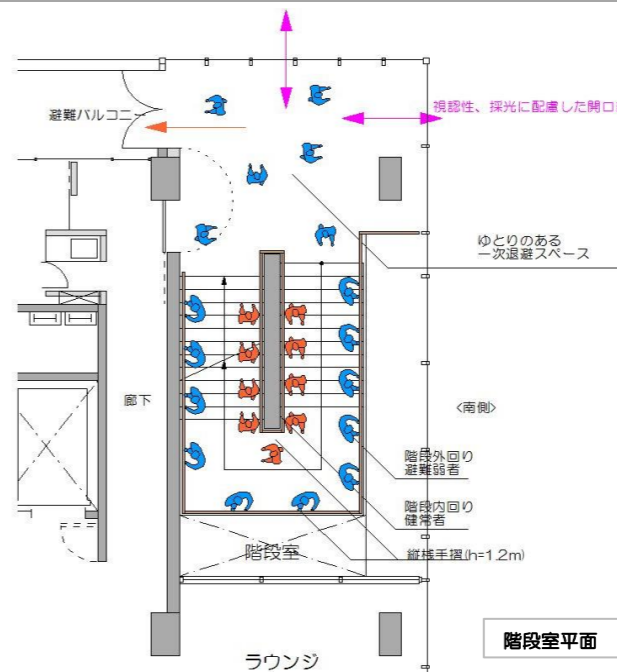
＜内部避難者＞

- ・外部避難者との動線の交錯が無いように2, 3Fの避難動線は北側外部階段を利用する。



弱者に配慮した段階避難・一時滞留の確保

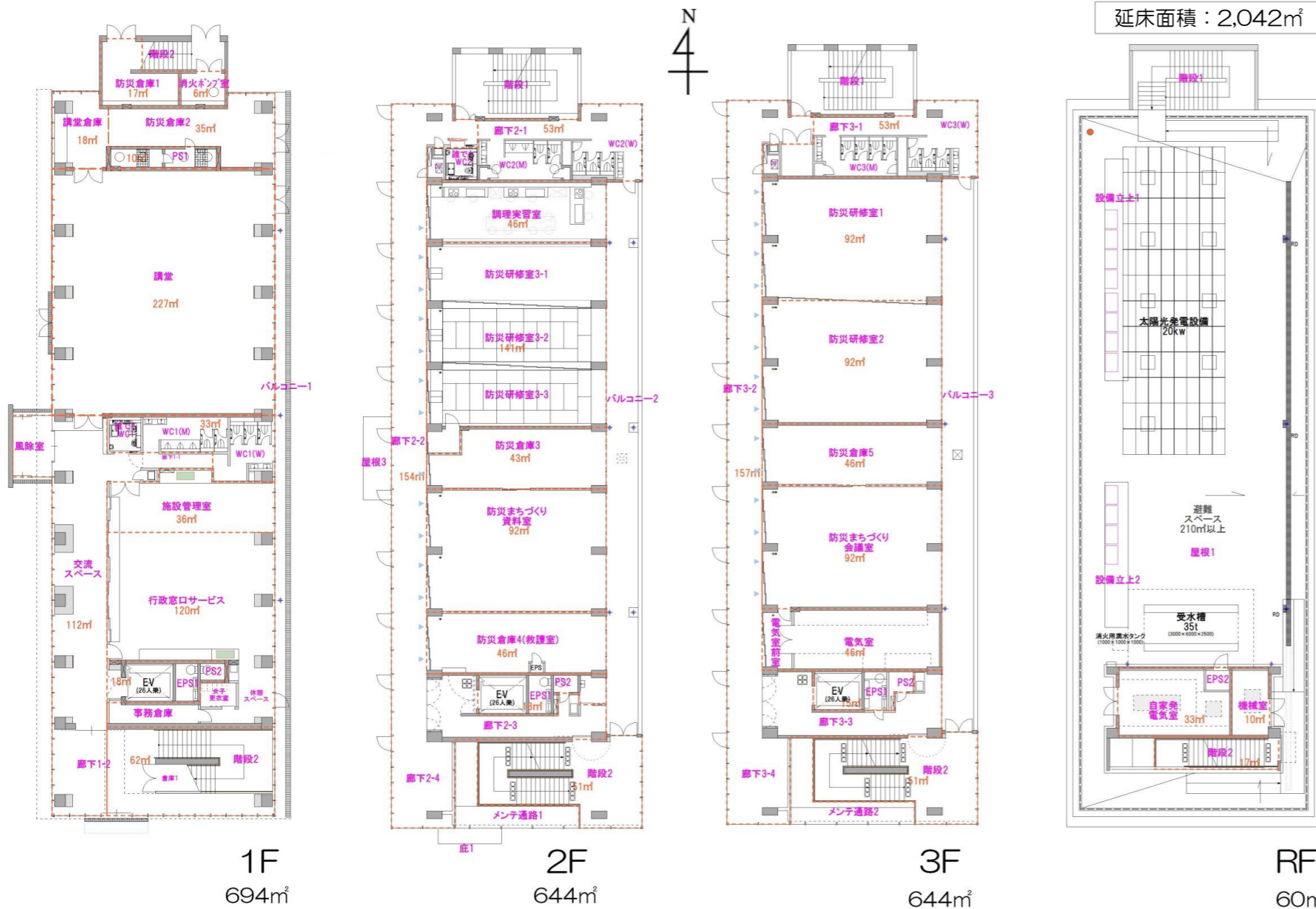
- ・避難用階段の幅員は余裕ある寸法を確保し、健常者と避難弱者の歩行速度の違いに対応した二列通行可能な計画とする。
- ・一気に高所に昇ることが難しい老人やけが人、要援護者等のために上階での一時退避スペースを確保する。
- ・避難階段は建物南東側に面して設け、避難経路から津波到来方向の状況が確認できる計画とする。



避難生活環境の確保と容易な管理の両立

- ・避難スペースとなる、防災研修室や防災展示室においては、明るく開放的な共用ロビーに面した壁を開放できる仕様とし、死角がなく管理のしやすい生活区画形成を可能にする。
- ・女性や子ども、要援護者などの避難時生活環境の確保については、居室を区切る仕組みや、パーティション等による生活区域分けにて対応する。
- ・誰でもWC、フラットな動線等、バリアフリーに配慮し計画する。

平面計画



内部計画

a. エントランスホール

- ・行政窓口と共用ロビーとを建具等で仕切り、津波避難ビルとして特徴的な斜め柱を生かした見せ方とする。
- ・斜め柱との衝突防止を兼ねて防災掲示板や記載台を設置し、地域の情報センターとしての役割を担う共用空間とする。
- ・土日など行政窓口を閉める場合は南側の外部出入口は施錠し、西側風除室の出入口に限定することも可能な管理しやすい計画とする。

b. 講堂

- ・床フローリングとの色調の調和を考慮し、斜め柱の衝突防止や南北壁面の吸音パネルを木を主体とし、温かみのある空間とする(内装制限の緩和を利用)。
- ・天井はスラブに直にグラスウールを接着張りとし音と地震時の落下防止に配慮する。
- ・照明の支持方法は梁に直接固定とする。照明は電球色を主体とし優しい雰囲気演出する。

c. 2,3F各居室

- ・空調機械は各スパンの中央部に排気ファン、空調機、送風機を並べ露出型としシンプルに配列する。
- ・空調機から出る冷媒管・ドレーン管を中央部のまとめ露出で処理する。
- ・天井はスラブに直にグラスウールを接着張りとし音と地震時の落下防止に配慮する。
- ・柱・梁の門型のRC構造部を意匠として積極的に活用する。
- ・東側のバルコニー側のサッシは中央部Fix、両端片引きとし、外部の視認性に配慮する。

